

醸芳小学校
だより
醸芳職員室

平成30年度
第129号
11月16日(金)

- ※ 3階からの眺め(整地された校庭、委員会活動の成果)
- ※ 絵の掲示(特徴ある絵の展示、図画工作の成果)

「幕府は、1639年、ポルトガル人を追放し、大名に沿岸の警備を命じた。」

「1639年、ポルトガル人は追放され、幕府は大名から沿岸の警備を命じられた。」

『2つの文は同じ意味かどうか。国立情報学研究所の研究チームが2016年に、全国の中高生を対象に行った読解力調査の出題例だ。幕府と大名の関係が入れ替わっているため、正解は「異なる」なのだが、中学生の23%、高校生の28%が「同じ」と誤答した。この調査では、主語と述語の関係といった「係り受け」など、文章の基本的な構造を理解できていない中高生が多くいることが分かった。』

これは、過日、新聞で報道された記事の一部です。主語と述語の関係などをよく読み解かないと誤答になってしまいますが、主語と述語の関係については、小学校1年生から、国語科で学年に応じて学習しています。

実はこの調査は「リーディングスキルテスト」と言われるもので、いわゆる読解力に関する調査です。ご存じのように、読解力は、様々な情報を正しく読み取り、理解するために必要であり、国語科だけでなく、算数科や社会科など他の教科を学ぶ際の基盤となります。

教育用語の解説書で「リーディングスキルテスト」を調べてみると次のように説明されていました。
(一部省略)

どの教科の教科書も文章を「読む」ことができなければ、教科の内容が理解できることはありません。リーディングスキルテストは、人が文章を「読む」際の11の読解プロセスに着目しました。

11のプロセスとは、「文章を正しく区切る」「『誰が』『何を』『どうした』のような構造を正しく認識する」「常識や知識から推論して、未知の用語の意味を位置づける」など、文章の読解に必要な力を11段階に区切ったものです。

「読む」力を11のプロセスに区切って測ることで、つまずきの原因となる読解スキルの習得、基本的な知識などが、どの程度身に付いているか(習得不足)が明らかになります。学習する際に、そのつまずき部分に留意し、不足しているスキルの習得や知識を補うことで、「読む」力は大きく向上するはずです。

本校でも、やや読解力に課題があります。機会があれば児童一人一人の読解力について何らかの調査を今後の指導にいかせればと思います。また、「読書」が読解力を育む上で大切ですので、次年度についても本校の取組の中核にしていきたいと考えています。